

クモはコメ作りのサポーター!!

初の観察調査、田んぼを中心に

広町緑地で初のクモ観察調査が7月12日午後、横浜市に住む小田島一彦さんの指導で、田んぼを中心に行われました。クモはその姿から嫌われがちですが、畦や水路の草に何種類もいて、ウンカやカメムシなどの幼虫を捕食し、イネの生長をサポートしてくれることが判りました。

入り口広場からタコノアシが群生している畦道へ。

「クモはどこにでもいる身近な生き物です」と小田島さんが言うとおりに、タコノアシにナガコガネグモが何匹も巣を架けていました。巣の中心近くに、白い稲妻模様があり、すぐ見分けがつかず、指を近づけると、巣を揺すって威嚇します。



ナガコガネグモ♀=タコノアシ群生地

ナガコガネグモが多い

御所川岸の木々に住むクモたちも見て回りながら、田んぼ



アシナガグモ♀=ふじ田んぼ東側水路

へ。道

具入れの北側に、シラカシ7本が垣根のように植えて

あります。その枝に、クモの巣が10近い。捕食した昆虫の残骸が残る巣も。

全部、ジョロウグモと教わりました。下品な名のようにですが、上品な上臈（じょうろう）にちなんだ、という説もあるそうです。



ジョロウグモ=シラカシの垣根

この日午前の作業で、手をつけなかった「ふじ田んぼ」東側水路



キクヅキコモリグモ=ふじ田んぼ

の水面近くに、アシナガグモが巣を架けていました。例のナガコガネグモもいました。この種が田んぼ一帯で、最も多いようです。まだ生長中で、イネが開花する8月上旬には、株間に大きく巣を張り、シオカラトンボを捕らえたりします。

子グモを おんぶ

南畦近くのイネに、キクヅキコモリグモがいました。歩き回りながら、ウンカなどを食べてくれます。お腹がふくらんで白っぽい袋になっています。ここに卵が入っていて、子グモが孵化すると、背中に乗せるそうです。

「不快虫だが、益虫」

つくし田んぼの北側水路には、ハシリグモが大小2匹。巣を架けず、水面を素早く移動して、昆虫を捕食します。

クモのほとんどは肉食で、主に昆虫類を捕食しています。小田島さんによると、「不快虫だが、益虫であることが多い」そうです。私たちがカエルやトンボの復活に目を向けている間にも、クモは「隠れた支援者」だったのです。

田んぼの周囲にクモが多いことには、以前から気づいていました。餌になる昆虫が多いためではないか。私たちが田んぼで無農薬栽培を守っている結果、生物多様性の向上をもたらした表われではないか。

やはり以前から、そうとも考えてきましたが、観察会で裏付けられました。



ハシリグモ=つくし田んぼ南側水路

ちまき状の毒グモに注意

クモは消化液を獲物に注ぎ、「体外消化」して吸収します。だから、どのクモにも多少は毒性がありますが、注意するのは、ヨシやササの葉に巣を作るカバキコマチグモです。

この巣は葉を折りたたんだ中にあり、粽（ちまき）そっくりです。この巣を不用意に壊し、中にいるクモに噛まれると、しばらく痛むそうです。



ふじ田んぼで。右から3人目の無帽が、指導役の小田島一彦さん

昆虫の足は6本ですが、クモは8本です。入り口広場に戻って、「8本足のアリ」を見かけました。外見は全くアリですが、アリグモという名のクモです。

私たちが目を止めないクモは、他にも多くいることでしょう。神奈川県にいるチョウは120種といわれますが、クモは500～600種だそうです。

この観察会には、自然観察の会を中心に9人が参加しましたが、うち5人は田んぼの会で活動しています。



毒があるカバキコマチグモの巣
=新田んぼ近くの園路沿い